



あとがき



2年前に欧州議会がやめると決めたはずの夏時間が今年も実施されています。「健康に悪い」というのが中止を支持する理由の一つのようですが、私は特に体調は崩さないし、遅くまで明るいのが夏らしくて好きです。この時期、娘の幼馴染のDrosgくん宅にでかけると、庭に咲くニワトコの花を煮だして作ったシロップ(Holundersaft)の氷水割りをご馳走になりつつ、彼のおじいさんから原研滞在時の思い出話など伺います。私も真似て家族サービスの一環にしようとニワトコの花を探すのですが、目につくのはニワトコとは少し違うガマズミの花ばかり。そのうえ家族からは「虫が混じるからシロップ作りはよしてほしい」と言われます。去年のいまごろ出かけたブルガリアのソフィアの研究所の構内にもこのガマズミが咲いていました。スラブ語圏ではこの花は「カーリーナ」として知られています。その指小形「カリンカ」を題名にしたロシアの愛唱歌のメロディーに聞き覚えのある読者もいらっしゃるでしょう。ブルガリアでは「カーリーナ」は女性の名前にもなるようで、ならば彼女と親しければ「カリンカ」(=カーリーナちゃん)と呼ぶのか、と友人に聞いたところ、それは嫌がられるとの由。「カリンカ」がブルガリア語では Tentウムシを指すからだそうです。この前週、ウクライナの核データセンター長から、彼女の友人が日本人と意気投合してウクライナ歌謡を絶唱している映像を受け取りました。中央アジア某国駐節大使の誼みでつながった二人が歌っていたのは「おお、草原の赤いカーリーナ」というウクライナ語の歌。こちらはロシアの愛唱歌ではなく、今回の戦争の主題歌のようです。ハルキウ(ハリコフ)の加速器施設の攻撃が話題になるなど、核物理も無縁ではいられない戦争ですが、両国のデータセンターが会議に出席できない、NEAデータバンクではEXFOR採録のロシアへの外注ができない、など私の仕事にも色々の影響がでています。核データの交換のような学術事業は戦争の影響を受けるべきではないと考えるのですが、そうはいかないのが現実です。両国の友人とともに長年仕事をしてきた者の一人として、彼の地に一日も早く平和が訪れることを願ってやみません。

大塚 直彦 2023年6月

日本原子力学会核データ部会  
核データニュース編集小委員会

合川 正幸 (北大)	岩本 修 (原子力機構)
大塚 直彦 (委員長、IAEA)	金 政浩 (九大)
小浦 寛之 (原子力機構)	中村 詔司 (原子力機構)
丸山 修平 (原子力機構)	山野 直樹 (RADONet)